

ロシア、4州強制併合



30日、クレムリンで演説するプーチン大統領＝ロイター



ロシア軍の進軍工ロシア
キーウ(キエフ)・ドニエストル川
ウクライナ
ハルキウ
ザボリージャ州
ヘルソン州
ミコライウ
オデッサ
クリミア半島
9月29日時点 黒海
ルハンスク州
ドネツク州
ダニーピス地方
アメーランツィヤ・ブリュズ

ウクライナ侵攻

ロシアのプーチン大統領は30日、軍事侵攻で占領したウクライナ東部、南部の支配地を自ら併合すると一方的に宣言した。占領地域で「行政」を担当親ロシア派が躍りこび、「ロシアへの編入」を求める「住民投票」が成立したと強調。併合文書に認印した。ロシアは今後ウクライナ軍が領土奪還を試みれば「ロシア本土への攻撃」と主張する考えだ。戦況が進捗を深めるのは避けられない。▼2面=誤算、9面=苦境の避難

「編入決定 住民の権利」

プーチン大統領が宣言

プーチン氏はモスクワの大統領府での演説で、「ロシアへの編入を決めるのは住民の権利だ」と述べた。

演説後、占領地の親ロシア派幹部と合意文書に署名した。

ロシアがウクライナの領土を一方的に併合するのは2014年のクリミア半島併合以来だ。国連のグテレス事務総長は併合を控えし、「国連憲章の原則おもむく違反だ」と厳しく批判した。

9月29日、「国連憲章の原則を尊重する」と明記した。9月29日、「國連憲章の原則を尊重する」と明記した。

ロシアはウクライナ軍の攻勢の背後に、欧米からの武器供給があるとみる。併合強行の背景には、占領地へ攻撃すれば「あるいは武器で反撃する」と極端な武力使用を恐らつかせる」と、歐米に武器支援を脅かすとする風潮がある。

したのは、ウクライナ東部のルハンスク、ドネツク両州、中南部サボリージャ州、南部ベルソン州の4州。未支配地域も含むとみられ、ロシアはクリミア半島も含め、ウクライナ全領土の約20%を「国連憲章とみなす」となる。

4州の占領地では、親ロシア派が23～27日、「住民投票」を行った。「99～87%の賛成で成立した」として、プーチン氏は併合を求める書簡を送っていた。

ネック、ザボリージャ州は依然として4割がウクライナの統治下にある。ロシア軍は今後、これらの地域で全州制圧を狙う。

ロシアはウクライナ軍の攻勢の背後に、欧米からの武器供給があるとみる。併合強行の背景には、占領地へ攻撃すれば「あるいは武器で反撃する」と極端な武力使用を恐らつかせる」と、歐米に武器支援を脅かすとする風潮がある。

ロシア軍に多数の死傷者が出て兵員不足に陥るなど、追い込まれたプーチン氏が苦境を開拓するため、併合という極端な手段を選ばざるを得なくなつたとの見方もある。

ウクライナのゼレンスキー大統領は、ロシアが併合に踏み切った場合、今後の停戦協議には一切応じないと主張している。

は、プーチン氏の併合宣言を裏付けて新たに対ロシア制裁を繰り出す方針だ。侵攻後ロシア寄りの立場を示す中国やインドも、国際法を無視した一方的な領土併合とは距離を置くとみられる。